

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

|                    |  |
|--------------------|--|
| 研究領域名              | 植物発生ロジックの多元的開拓   |
| 領域代表者              | 塚谷 裕一（東京大学・大学院理学系研究科・教授）   |
| 研究期間               | 平成 25 年度～平成 29 年度  |
| 科学研究費補助金審査部会における所見 | <p>本研究領域は、日本がリードする植物発生生物学が、世界のフロントに到達したとの認識の上に立ち、発生・成長の本質部分のロジックに焦点をあて、発生過程の制御機構を明らかにしようとする独創性・新規性のある提案である。特定領域研究「植物メリステムと器官の発生を支える情報統御系」(平成 19～24 年度)の成果の上に立脚し、更に未来を展望したスケールの大きな領域研究で着実な成果が期待できる。また、研究目的の妥当性は高く、植物発生学分野で我が国の指導的な地位を強固にするために必要であるだけでなく、植物バイオマスなどの応用研究にも一定の波及効果を及ぼす可能性がある。</p> <p>研究組織は、5つの階層からなる計画研究に、実験系のみならず数理モデル系の研究者も参画する体制になっている。加えて、研究支援やリソースの共有、他の領域との連携も計画されており、高く評価できる。また、領域代表者の広い視野に立ったマネジメントも期待できる。公募研究では優れた若手研究者を厳選して本研究領域のハブを形成しようとしており、領域全体の推進が期待できる。</p> <p>一方で、領域内の有機的な繋がりを一層促進するための工夫や、数理解析と各計画研究との連携の強化が望まれる。また、次世代シーケンスを活用したグループの必要性や、数理解析の層を厚くする必要性も検討すべきだと思われる。</p> |